

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員で話し合い、地域密着型の理念に変更して、ホールに掲示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を理解し、利用者本位、自立支援にむけて日々取り組んでいる。	○ 理念の理解のため、事業所内研修は時に再確認をしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内に利用者や家族が見やすいように理念を掲示している。町内の行事、総会、地域推進会議を通じて、理念の理解に努めている。	○ 町内会の行事、総会時に事業所の理念をわかりやすく知らせる努力をしている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内の婦人部長さんは、運営推進会議に出席している関係で、ふきのとうや漬物を頂いたり、大根の料理法を教えて下さり一緒に作る時がある。又、三丁目の夏の納涼祭には毎年参加し、皆さん楽しみにしている。敷地内にバスケットゴールを設置し、地域に開放し近所の3~4校の中学生が来て、気軽に声をかけあい遊んでいる。	○ 町内会との交流や行事への参加を今後も継続して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価では、自分たちの気付かないところを指摘されるので、すぐ改善するように心掛けている。自己評価も自分たちの行いを見直すという点でよいと思う。</p>	<p>○</p> <p>より以上に評価の意義を理解し、改善に向けて取り組んでいきたい。</p>
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、活動や評価への取り組み状況について報告して、参加者の意見を取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>参加者の意見を取り入れ、ケアの質の向上につなげていきたい。</p>
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>質問等を市町村担当者と行き来する機会を設け、情報の提供をはかっている。</p>	<p>○</p> <p>運営規程の細かい点について市町村担当者に質問をして、答えを待ってから事業運営に生かしている。</p>
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員が順番に研修や講義に参加している。ホーム内でも学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合っている。必要な人には、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>外部、内部の勉強会に積極的に参加し、理解度を高めていきたい。</p>
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の防止を話し合う学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。すべての職員が正しく認識し虐待のないケアを実践している。</p>	<p>○</p> <p>虐待の一形態であるネグレクト(介護放棄)について、具体例をあげて虐待になるならないを各人ごとに理解してもらう努力をしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、退所時説明を行っている。特に入院時、家族は退所しなければならないか、不安もあるため説明をして、退院できるなら部屋を空けておく旨を言っている。	○ 重要と思われる点については、契約の説明後に再度確認して理解してもらっている。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見等でできる事は希望を取り入れている。不備等も職員全員で共有し、改善に努めている。	○ 利用者の意見について職員との話し合いの場をもうけて、利用者の意向にそうもの、そえないものと分けている。その際、利用者の意向に出来るだけそうようにしている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月一度、利用者個人それぞれに体調や生活状況を記したトントン邑便りを発行している他、生活や健康状態に変化があった場合は、その度家族に報告している。	○ 生活や健康状態に変化がある場合には、経過と現状を報告し、現時点での最善の策を提案して家族の了解を得てから実行している。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時、書面にて苦情の申し立て先を説明している。又、面会時に声かけし、ホームとして気付かない面を教えてほしい旨、要望等をお願いしている。	○ 家族に対し、より交流がもてる場をつくっていききたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者よりも各階のリーダーに話しやすいので、リーダーを通して、管理者に報告し是正するようにしている。	○ 職員の小さな提案でもリーダーに話してもらって職場の改善に生かせるようにして行く努力をしている。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な欠勤の時も前日に連絡をもらい、代替りの職員に出勤してもらうようにしている。家族の都合での急な病院の付き添いも管理者、職員で対応している。	○ 職員1名を余裕ある勤務割にして、急な欠勤に対応するシステムにしている。職員1名で不足する時は、管理者さらに理事も不足分を補うシステム作りをしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士協力し合い、カバーし合い、退職する場合は、早めに職員の補充をし、仕事に慣れてもらっている。	○	新規に雇用した職員の役割を簡単なものから少しずつ高度なものにもって行っている。この際、利用者の状況を第一に考えて対応をとるようにしている。
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階をおって、認知症の実践者研修、GH協議会の研修、ホーム内の研修を行っている。	○	認知症の実践者研修、GH協議会の研修参加者を講師にしてホーム内の研修に取り入れることを実施している。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の総会、懇親会、勉強会には、多くの職員を参加させ、情報交換をし、いいものは取り入れるようにしている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	リーダーが話を聞く体制が整えられており、悩みの解消に努めている。管理者は、仕事のスケジュールを過密にしないように努めている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得した時は、昇給している。毎年4月には実績をみながら昇給している。又、介護に関しては、職員、リーダーにまかせ、運営者はあまり口を出さないようにして、報告を受け、チームワークを大事にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前は、何度か面接を行い、家族の困っている事や不安な事を聞き、話を受容するようにしている。	○ 面会時も慣れるまで、こちらから声かけし、何でも相談してもらえるように心掛けて行きたい。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、家族が入所を希望しても本人が入所を希望しないような人には、他のディサービスやショートステイ利用でお泊りに慣れてもらうようすすめている。	○ 出来るだけ本人の希望を受容し、対応に努めていきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の生活歴を聞いたり、本人の希望や好みを家族から聞いて把握し、場の雰囲気に馴染めるような工夫を行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がわからない事柄を利用者の経験や知識から教わるようにしている。掃除、物干し、配膳等作業を一緒に行うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時家族に利用者の近況報告をしている。家族と職員と一緒に利用者に関わるようにしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解し、無理強いのないように支援を求めたりしている。又、トントン邑便りで最近の様子を伝えている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来た時は、また来て下さるように声がけしている。馴染みの場所をドライブの時通ったりしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人一人を把握し、席順を考慮してレクリエーション、誕生会、ドライブ、年間行事等に参加してもらうようにしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後もいつでも遊びに来ていただけるように声がけしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日一人一人に声かけをし、会話、表情から思いを引き出せるように努めている。必要に応じて時間をかけて、ゆっくり話し合うように心掛けている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴を聞いて、一人一人に合った作業を行っていただき、日々生活の中に活かしている。	○ 家族の面会時もっとコミュニケーションをとり、利用者の生きがいにつなげて行きたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の特技や趣味を把握し、手芸や調理の手伝い、ホールの掃除、亀の世話、パズル、手摺拭きを手伝ってもらっている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報、介護の意向、本人からの意向を聞いて作成している。又、ケース会議で職員の気づきや意見を話し合い、介護計画に反映されている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月ごとの見直しを行っている。状態変化等があったときは、アセスメントを行って見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を記録し、個人記録には介護計画の目標を明記している。日報には職員が確認印を押し、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ、外出時、通院時、入所時、入退院時の送迎などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内婦人部には、地域運営推進会議に参加してもらっている。警察、消防にも協力をお願いしている。ボランティアも時々来て、利用者の相手をして下さっている。	○	ボランティアの活用を積極的にしていく。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所中は、他のサービスの介護保険は使えない。家族への協力等をお願いしている。	○	インフォーマルから地域資源等サービスの開拓をしていく。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	理事長が成年後見人や身元保証人になっている。社会福祉協議会、地域包括支援センターと協力してやっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の方に緊張感や不安を与えないように心を配り、利用者の個々の状態に応じた働きかけをし、情報交換を行い、職員との信頼関係を築く事に努力するよう努めている。	○	利用者、個々の十分な話し合いをし、コミュニケーションを取るようになっている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護者は、自分を常にかえりみて言動に気をつけ利用者の方をさぐるような情報を興味本位にとりあげず、秘密を守るよう努めている。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方が気軽、気楽に自分の気持ちを出せるような場面を作り出し、介護者は情報交換をこまめに行い、利用者のレベルに応じた支援について話し合う。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビの番組等で好き嫌いを聞いたり、レクリエーションや体操に楽しそうに参加している様子を見たらその際は楽しい感情を利用者、介護者共に分かち合い、その楽しみが倍加するよう試みる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の方がどうゆう物や色等が好きか聞いたりして、身だしなみやオシャレが出来るよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて、おしぼりの準備、食事の盛り付け、後片付け等を行っている。	○	出来る事は個人に合わせてやっていきたい。職員と協力してやっていきたい。
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できるだけ本人の希望に応えるようにはしているが、団体生活である以上、飲食物に関しては同じ物を同じ量提供しなければトラブルにつながる場合もあり、基本的に同じ物を提供している。	○	水分補給時の飲み物は希望を聞きながら出している。(お茶、コーヒー、紅茶等)
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間毎にトイレ誘導し、自力排尿をして頂くように行っている。おむつ着用時には、時間を見てパット交換等を行っている。夜間、おむつを使用している方は、こまめに交換し捨てている。清潔に保っている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全を第一に考え、その日の利用者の体調等を考え順番を決めて全員が平等に一番に入れるように配慮している。入浴中は、個人個人に合わせてゆっくり入って頂けるように声かけや話題を探し話して頂く。入浴を拒否されても何度も声かけして、入ってもらえるようにしている。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後、午後より時間をみて、お部屋のベッドで休んで頂くようにしている。夕食後は、本人に希望を聞いてホール内で過ごしたり、休みたい方はベッドに誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合った内容のお手伝いを負担にならない程度に日々の日課となるよう役割を持って取り組んで頂いている。利用者個々に取り組める折り紙やぬりえ等の日用品や入居者同士で楽しめるゲームやカラオケを設備し、好みに合わせ取り組めるようにしている。又、気分転換に外へ散歩や外出、車でのドライブに出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の力に応じて、個人でお金を所持できるようにしている。お金の管理が必要な場合は、本人の希望を伺い、可能な範囲で使用できるように支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活やレクリエーションを通して、私達が知りたい情報が得られます。自由な生活場面でその人が何を感じ、どのように表現するのか、その言動を通して人格、全体的に理解する。現在の言動は過去の生活や生来の性格と関連している事も理解できる。よく理解するためには、決して判断を急がず理解を深めるよう努める。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常生活あらゆる場面で外出時、食事の時介護者と接している時、お年寄り同士でいる時、その場面場面でどのような行動をとっていたか、表情や態度等はどうであったか、日常の生活場面の観察から私達が知りたい情報が得られます。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の能力に応じて、基本的には電話、手紙のやり取りは自由にしている。状況に応じて事前に家族等に連絡、確認をとるようにしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆっくりと面会者と話ができるよう居室に誘導し、椅子を用意し、お茶を出している。又、入居者の普段の様子や出来事を話し、たまにしかこれない知人には、本人がとても喜ぶので又訪問する事をお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方のおかれた環境で利用者の方が安心して感情豊かに生活できるよう生活援助をしています。そして、痴呆老人だから何も分らないという接し方は避け、一人の立派な人格をもった人として尊重する介護に努めています。	○	身体的な活動レベルや他の疾患の有無などによって一律ではありません。全人格的にその人に適した個別の介護を提供する上で利用者の心理や感情にまで踏み込んだ介護ができるよう努めます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	[無断外出の保護]	
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	利用者自身の生き方や個性を認め、その人らしさを尊重する。家族以外の介護は家族の役割を忘れずに利用者の方を支える一員として家族と共に介護のチームワークを作る。本人の生活を快適に安全に生きがいをもてるよう又、生きがいを支えられるような生活援助をする。	○ 利用者の方一人一人の理解に努め、個別のケアに努める。疾病の有無で利用者の方を看るのではなく、全身状態、身体的、精神的、社会的、対人関係を含め、全人格的ケアが求められる。
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	はさみ、裁縫道具等は、必要に応じ使用するが付き添い見守りをしながら、一緒に使い、危険のないようにしている。	
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	新聞の情報や過去の事例を参考にし、事故を防ぐ為はどうすべきか、話し合っている。又、一人一人の状態を把握し、その時の状況により対応している。	
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	地域での救命講習会や研修会に参加し、施設内で情報を共有している。又、訪問看護師より急変時の対応の講習会を受けている。	
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	定期的に消火訓練、避難訓練を行っている。又、積極的に町内の活動に参加し、お互い協力し合うようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>拘束をしない事から起こる転倒のリスクを家族の方と話し合った。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎朝のバイタル測定、皮膚観察、その他の変化、異変に注意を図り、発見の際は速やかに管理者、家族、職員に連絡するようにしている。</p>		
71	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>処方された薬は、服用薬品名カードを確認し、変更、追加があった場合には、その都度申し送り、連絡ノート等で職員間で確認している。</p>	○	担当の医師、訪問看護師の指示、指導を受けて、薬について十分に理解していく。
72	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>排泄管理は、入居者一人一人の生活習慣に合わせて、時間、回数、量等を記録している。こまめに水分補給を行う。可能な入居者にはヨガ体操等も行っている。</p>	○	食事、運動、睡眠の基礎的な生活からの自然な排泄を目指した上で、必要に応じて下剤等を用いて便秘に対応していきたい。
73	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後、入居者一人一人に合わせて、必要な口腔ケアを行っている。</p>		
74	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>入居者一人一人に合わせて、食事の量、形(きざみ、とろみ)等を調整し、必要に応じて食事介助を行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	食事前のうがい、消毒済みおしぼりでの手拭きをしている。外出後もうがい、手洗いをしている。手拭きタオルの消毒を行っている。		
76 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の整理、消毒を行っている。夕食後には、ふきんや調理用具類の消毒を毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花や入居者の手作り品を飾っている。		
78 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節感のある物や行事の写真を飾っている。場所がわかるように大きく名前をつけ、カーテン等で明るさを調整している。		
79 ○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや椅子を置き、自由に過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人、家族からの要望を聞き入れている。好み のものを持参して頂き配慮している。	○	観葉植物、季節の花等の設置、四季折々の物を置 き、季節を感じて頂く。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室には換気扇を設置している。各居室に温度 計、湿度計を設置している。	○	窓にレースのカーテンを取り付ける。日差し、 風、明暗の調節が微妙にでき安堵感を得るため。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手摺を設置している。	○	各居室、ホールのストーブのメンテナンスを充分 に行う。ガードフェンスを設置し安全を充実させ る。ボイラーの点検も行う。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個人のレベルの把握と機能低下状態を考慮し、自 立支援を行っている。	○	各個人の生活歴、病歴を充分理解、把握し、統一 したケアで自立支援をしていく。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	廊下に行事の写真を掲示している。食堂のテーブ ルの椅子以外にも邪魔にならない場所に椅子をお いてくつろげるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の (該当する箇所を○印で)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の (該当する箇所を○印で)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②○少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③○職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③○利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②○家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1・入居者の方々には、安心、安全、安定のある生活をして頂く為、研修講習に参加し、職員のケアの質を高めると共大切にし、自己決定を促し尊重する。援助者は、自分の感情を自覚し吟味し、信頼感をつくりあげる。安らぎと慶びのある日々をその人らしく最後迄生活して頂く。
- 2・グループホームとして町内会に参加、町内総会、町内行事(花見、ゴミゼロ運動、納涼パーティー、運動会等)や公に参加している。
- 3・成年後見、任意後見制度や地域福祉権利擁護事業等の紹介、成年後見、任意後見制度申立等手続の支援、虐待の早
- 4・病院、福祉施設、公営住宅、民間アパート入居、入居時の身元保証支援。
- 5・生活困窮者に対して、契約書、請求書、領収書の保存、予算を立てて予算内での生活、話し合い(カウンセリング)
- 6・生活保護受給申請の支援。
- 7・遺言状の作成、相続の支援、葬儀遺言執行、身辺整理の支援。

